



2004 年 2 月 1 日発行
発行人：堺 充廣
発行所：神戸市中央区海岸通 8
神港ビルヂング 5 階 509
TEL/FAX：078-393-0050
(TEL・FAX とも同じ番号です。)
E-Mail：kobekeio@dream.ocn.ne.jp
URL：<http://www.kobekeio.org/>
編集：堀 友子・八巻 啓郎

～ 1 月例会報告 ～

芦原 直哉 (昭 50 経)

関西不動産三田会と合同の新年例会が去る 1 月 16 日(金)に中内副幹事長経営のポートピアホテルレインボールームで 80 名を越す参加を得て盛大に開催されました。

冒頭、当会の和田会長と関西不動産三田会の永山代表世話人からご挨拶を頂き、引き続き堺幹事長と佃事務局世話人からお互いの会務報告がありました。

関西で最も活動が活発だといわれる両三田会がお互いの活動に理解を深めたことと思います。

続いて浦上忠文神戸市議員から講演者である北口寛人会員のご紹介と、年頭にあって考えたこと「新人になろう！」(書初めに書いたとのこと)ということについて話がありました。常に現状に満足するのではなく新人になって新たなことにチャレンジしようという趣旨で“何時にも増して”素晴らしいお話でした。

講演会では、現在の地方行政の現状について



北口明石市長からお話がありました。北口さんは平成元年卒の 38 歳です。その若さと行動力でこれまでの魑魅魍魎とした行政、そしてほぼ破綻している地方行政の再建と毎日を張って戦い、取り組

んでいる奮闘振りが良く分かりました。

質疑応答では、地方行政に対する国民の怒りを代表して会員から鋭く厳しい質問や意見が出ました。北口さんの改革を皆で一緒に応援したいものです。

例会の後は、関西婦人三田会の会長でもある芳川玲子会員のご発声で乾杯を行い、懇親会が行われました。美味しいポートピアホテルの料理を楽しみながら、両三田会の交流の輪が広がって行きました。

～ 新年賀詞交歓会報告 ～

1 月 5 日の年明け仕事始めに、わが神戸慶應倶楽部でも新年の初顔合わせを行いました。

いつもの例会とはまた違って、雑談から始まり時事問題など議論し合い、和やかな内にもアカデミックなムード漂い、これぞ慶應といった連帯感を再確認できた有意義な一日でした。

会員 30 名前後が三々五々集まり、お酒とお鮎にすっかりご機嫌で、時間一杯まで席を温めた会員も多数ありました。



(記事：堀 友子)

『関西勤務四十年』(一)

非体育系のつばやき

中神安邦さんの「タイガージャージ」を楽しく読ませていただいた。体育系の人々の青春時代にはなにかロマンがあり羨望を感じる。

私は典型的な非体育系である。非体育系には音楽演奏から俳句、旅行までおよそ人生に潤いを与える多彩な文化系がある。しかし、いまでもあなたの趣味はと聞かれると、「読書・音楽鑑賞」としか答えようのない無趣味な私に残されていたのはまことに野暮な学術研究系であった。私は学研の「近代経済学研究会」に属していた。

同好の士

当時、この研究会は早稲田、中央、東京、一橋の四大学と「インターゼミ」を開き、意見発表当番校のキャンパスを交代で訪れていた。私も意見発表をしたことがある。いま残っている唯一のノートでその日付を調べると昭和二十八年十一月二十四日となっている。遠い昔の話とはこのようなことをいうのだろうか、かねて思っていた。

ところが先日、日本経済新聞の夕刊に連載の



堀切 民喜(昭二十九経)

「人間発見」で、イトーヨーカ堂の鈴木敏文会長のお話「常識を打ち破れ」を読んで本当にびっくりした。私の方が二年早く卒業したのでおそらく一緒したことはないが、一月六日づけ記事で鈴木さんが中央大学の学生としてこのインターゼミに加わっておられたことをまさに発見したのである。

役に立った近代経済学

鈴木さんは「五大学共同のインターゼミがあつて、こゝでずいぶん鍛えられた。議論を戦わせては本を読み、また議論する。その繰り返しでした」と述べられている。

私は鈴木さんとは二十年ほど前に、ある勉強会で何回かご挨拶した程度であるが、感激のあまり失礼を顧みずつぎのような感想文を送らせていただいた。

「私もまったく同じことを実感しており、この時の集中的な勉強がその後の社会人としての私のキャリアに一番役立ったと信じております」。

なぜ役立ったのか、次回にそのことを述べてみたい。それが長い関西勤務の始まりでもある。

(続く)

トビックス!

知る人ぞ知る神戸のハイセンスな雑誌「月刊神戸っ子」新年号に神戸慶應倶楽部が8月例会の写真とともに紹介されました。閲覧ご希望の方は、倶楽部ルームに置いてありますのでお立ち寄りください。

神戸慶應倶楽部は昭和4年(1929)に神戸市及びその周辺の塾員により設立され、現在約300名の会員を誇る伝統ある神戸地域の慶應義塾同窓会です。

三田会の中でも数少ない、いつでも集まれる「倶楽部ルーム」を神戸の中央部に持ち、毎月の例会はもとより、囲碁・パソコン・絵画・ジャズ等の同好会で交流の機会を設け、アウトドアではゴルフ・テニス・乗馬等の活動も盛んです。月例会では講師を招いての講演会に多くの会員が集い、年2回のパーティには家族連れの参加も多く、コンサートや倶楽部伝統のオークションと一緒に楽しみ親睦を深めています。

戦前ご卒業の大先輩から新規卒業の若者まで全ての会員が年次の壁を越えて睦みあう素晴らしい会です。入会のその日から300名の親しい「社中の絆」ができることでしょう。

この掲載を機に、多くの塾員の輪が更に広がっていくことを祈念いたします。(511号より抜粋)

会員だより

元気です！（その後）

森本 周子（昭 25 文）

『あせる馬鹿、あせらせる馬鹿、あせらされる馬鹿』この三つの馬鹿のうち、最も重症は最後の項目である。本質的には、あせる要素がないにも拘らず他動的にやられてしまい、行動の自由を失う人、愚にもつかぬことを、あれこれと考える私は最大級の馬鹿といえる。

一昔前、クレージキャッツの親分であったハナ肇が、たしかコマーシャルか何かで「あんたかアホや、うちかアホや、ホナラ、サイナラ～！」と言った姿を思い出し、このリズム感に富んだ言葉は、大阪弁の特長と相俟って耳ざわりもよく、人の心に暖かく訴えかけた。

私など 60 歳の前半では、何とかやりたいことの半分は出来たように思うが、後半は多分四分の一もまともに出来ないであろう。身体の不調は昨年以來急増し、気分的にあせることばかりである。

「そんな時は、よくよく気を付けなくちゃ駄目よ！」と大学時代の友人から言われる。彼女はひたむきに源氏物語の世界に入って、その真髓を多くの人々に伝えようとしているのだから偉い。よほど強力な意志がなければ出来ないことである。私は、意志薄弱で周囲の力になされるままに動く衝動が、年を重ねる毎に増えて行く。体力が弱ると気も弱くなるのは、凡人では避けがたいことかもしれないが、我ながら自分の近況にあきれかえるばかりである。

アダナ暮らし・・・その

池田 雅彦（昭 39 工）

皆さんこんにちは。トルコにきて早 8 ヶ月がたちました。

未知の土地で、初対面のトルコ人の中に飛び込んだ割には、仕事も順調で初めて経験するコンサルタントの仕事を楽しくしております。

当地アダナはもうすぐ地下鉄が走ると云うトルコ第 4 番目の都会ですが、日本人男性は今のところ私一人住んでいるだけです。赴任前からの心配は、ゴルフ場や日本料理店がないことでしたが自

分なりに次々と楽しみを見つけ今日に至っております。

来て間もない頃、最初に覚えたトルコ語は「ブネカダール？（コレ、幾ラ？）」と「チョーク・パハール（チット高イナ・・・）」の二言でした。そもそも生まれが関西で、更にフィリピン、タイ、中国、スペイン等々を渡り歩き、ひたすら「値切る」技術を磨いてきたような私は、トルコもその種の国であることを知ると、とたんに胸が騒ぎじっとして居れない気持ちになったのであります。休日をもっぱら店を冷やかしながら街の隅々を歩いて過ごしていた頃の話です。

日本で 5 千円する養毛剤がアメリカでは半額だったのを思い出して、アメリカンバザール（アメ横）に買いに行くことにしました。いつもの通り「ブネカダール？」すると髭のオヤジは何と 50 ミリオンリラ（4 千円）を計算機で示すではありませんか！外人とみて足元を見たな！すかさず「チョークパハール」と云って相手の計算機を取って 25 ミリオンリラ（2 千円）を示しました。すると 30 ミリオンリラで良いと折れてきました。そこで済ませば良いのですが、東南アジアで昔鳴らした腕をためしたくなるのが私の悪い癖です。

にっこり笑いながら「ベン、トルッキエ、セヴィヨルム（ボク、トルコ大好き）」とオヤジの肩を撫でる。「OK！25 ミリオンリラ OK」これで交渉成立。つり銭の 5 ミリオンリラを受取り、「やはり、トルコではこの殺し文句に限るな・・・」など思いながら意気揚々と店を出ました。いつもの街角で焼き栗を 2 ミリオンリラ（160 円）がとこ買おうと思って、さっきのつり銭の 5 ミリオンリラを差し出しました。すると、急に焼き栗のオヤジが目まん丸にして渡したお札を突っ返すではありませんか！「オヤ！？」と思って慌ててお札のゼロの数を数えました。何とそのお札はゼロがミリオン（百万）に 1 ツ足りない 5 ツ、50 万リラ札（40 円）だったのです・・・。（アメ横のオヤジは 29.5 ミリオンリラ受け取っていることになる。）

焼き栗オヤジが怒るのも無理はないと謝りながら引き上げましたが、「あっぱれ、あっぱれ」とアメ横のオヤジの見事な手口に頭が下がる思いと、見事にしてやられた自分の甘さに思わずニンマリ苦笑いをしながら帰りました。この貴重な体験のお

かげで、それ以来、ゼロの数で勘定を間違えたことはありません。

次回レポートを楽しみにしています。(編集部)

旅行記特集

メルボルンを訪ねて

出口 英雄(昭37工)

昨年の11月末から1週間程オーストラリアに行って来ました。

昭和34年、私は日吉の教養から、当時専門部のあった小金井に移り、工学部サッカー部に入学した。1年先輩、同期、1年後輩に国体にも出た優秀な部員が揃っていて、かなり激しい練習と、夏・春の地方での合宿をこなし、学業は勿論、サッカーにも打ち込んだ素晴らしい仲間がいた。

卒業以来40数年、メルボルンに居る1年先輩のY氏より、遊びに来ないかとFIT(工学部サッカー部のOB会)に誘いがあった。Y氏は大手商社のメルボルン支店長を最後に独立し、メルボルンにて貿易会社を営んでいる。

12月1日にメルボルン集合と決まったので、イーゼル会の間をぬって関西から一人参加することにした。

先ず、シドニーに入り、ナイトクルージングを楽しみ、市内は歩いてあちこち回り、お決まりの水族館見学などで2日ほど過ごした。



メルボルンで、40年前ひたむきにボールを追った懐かしい仲間達との再会となった。

1日目はY氏宅でおいしいワインと奥様の手料理に感激し、昔話に時間を忘れ、2日目はY氏のホームコースでゴルフ。スコアは別にして楽しい時間を過ごした。夜はおいしいシーフードレストランで再度旧交を暖めた。3日目は市内散策、水族館見学の後、フィリップ島へ赴いてカンガルーとたわむれ、かわいいリトルペンギンウォッチングと短いながらも

充実した3日間を過ごした。

皆と再会してみると、それぞれ若い時の面影を残しており、あっという間に慶應時代の仲間に戻ってしまった。

海外への旅と言えば、会社からの出張や自分で企画した視察旅行がほとんどだったが、こんな旅もたまには良いものだ、一寸感傷に浸りながらメルボルンを後にしたのでした。

近況報告です

青戸 統子(昭29文)

昨年11月末、デュッセルドルフでの欧州合同三田会に旅の帰りに寄りました。

80人ほどの塾員が英、仏、独、オランダ、ハンガリーetc. から集まり、大変貴重な思い出となりました。

曾野 洋(昭62法)

以下3点を通して、近未来の教育を展望しています。

玉川大学教育学部助教授として、「学校制度論」を担当。教育改革の論点を講義しています。

慶應義塾大学SFC研究所・慶應義塾福澤研究中心にて、変革期の教育改革の特徴に関して研究・調査しています。

文部科学省「小規模市町村教育委員会広域化モデル事業」検討会議の委員として、自治体合併後の教育行政の在り方について模索しています。

NHK「その時歴史は変わった」VTR 撮りしただのにON AIRは名前だけ!

川崎 洋子(昭53文)

1月例会で芳川さんが1月29日の放映についてPRしてくださったにも拘らず、当日の放映では画面のどこにも現れなかったのです。見ていただいた皆さまは何故?と思われたことでしょう。

ビール酵母のパンが明治時代の人には馴染めなかった。そこで当店の「ビール種のパン」を引き合いに出すのは忍びないということらしいです。

編集会議で決まったこととはいえ、何も前日になって知らせなくても…てんやわんやでした!

これが放映断念のいきさつです。ザンネン!

阿部 真一会員より

渡邊 正夫 (昭 48 法)

まずは、自己紹介

昨年 8 月に入会させていただきました。(在学中はマンドリンクラブ所属)

昭和 48 年に電通神戸支局(当時)に入社、昭和 55 年に電通関西支社へ異動となり、一昨年秋に電通西日本へ出向、神戸支社へ 22 年ぶりに戻ってきました。と言いましても、電通はご存知でも、電通西日本をご存知の方は少ないのではないのでしょうか?

そこで、PR を兼ねまして簡単に電通西日本のことを紹介させていただきます。平成 7 年に、電通は、東京本社・関西支社・中部支社と、地域電通 6 社(北海道・東北・東日本・西日本・九州・沖縄)に分かれ、新たな国内ネットワークを構成。その中で、北陸・中国・四国を営業領域にしているのが電通西日本(本社・大阪)です。昨年 4 月に、電通西日本として新たに神戸支社が開設されました。肩書は、支社次長兼媒体部長兼総務課長、いわば何でも屋です。より卓越したコミュニケーションを、地域に密着した形で展開していきたいと思っております。

是非、お声をお掛け下さいますようお願い申し上げます。

次は、井上 祥さん(昭 56 法)にリレーします。よろしくお祈りします。

今月の絵



(イーゼル会：志原 照造)

日時：2月18日(水) 18:30より

会場：神戸メリケンパークオリエンタルホテル
5階「天空の間」 (Tel: 078-325-8111)
(〒650-0042 神戸市中央区波止場町 5-6)

ゲスト：オペラ歌手 木村 俊光氏

1944年札幌生まれ。桐朋学園大学卒。日本音楽コンクール声楽部門第1位、ミュンヘン国際音楽コンクール最高位などの輝かしい経歴をお持ち。1985年には、ライン劇場より東洋人として初めての終身雇用の権利を得る。

帰国後も、内外のオペラに出演されるなど、現在は二期会理事、桐朋学園大学音楽学部教授、声楽主任として後進の指導にご活躍中。

会費：8,000円

平6卒以降の会員及び女性 6,000円

～今後の行事予定～

○3月26日(金) 18:30～

3月度例会 東天閣

講師：野澤武史氏(神戸製鋼ラグビー部) 予定

○4月21日(水) 18:30～

4月度例会 倶楽部ルーム 講師未定

○5月21日(金) 18:30～

2004年度総会 蘇州園

詳細につきましては、決まり次第BRB・メールマガジン等でお知らせしますので、毎月ご覧ください。

「BRB」についてのご意見、ご感想をお聞かせください。

堀 友子

八巻晤郎

○二月は逃げると言いますが、本当です。縮こまっていたら発行時期に遅れてしまいました。おまけにページ数も少なく申し訳ございません。皆さまの積極的なご参加ご協力をお願いするばかりの今日この頃です。よろしく。
(ほ)

○北口明石市長の熱き思いにわいた一月例会。毎日の生活に密着しているはずなのに議論になりにくい地方行政。地方分権を促進するための三位一体の改革といっても「国」から「地方」への移譲ばかり。「国」があつて「地方」があるような思考からの脱却が第一。住民の意識改革が「地方」そして「国」の構造改革に不可欠といえるでしょう。今年も「地方」に。浦上会員の唱える「新人になろう！」を心し
(晤)